

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22251008

研究課題名(和文)シルクロード東部の文字資料と遺跡の調査 - 新たな歴史像と出土史科学の構築に向けて -

研究課題名(英文) Research on the textual materials and historical ruins in the eastern part of the Silk Road - In search for a new historical viewpoint and a new science for the unearthed textual materials -

研究代表者

荒川 正晴 (Arakawa, Masaharu)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：10283699

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,100,000円、(間接経費) 10,230,000円

研究成果の概要(和文)：各班における資料調査の成果にもとづき、シルクロード東部地域の民族や文化の交流および政治・社会・経済などの具体的な姿を、各分担者の研究領域から明確にするとともに、「出土史科学」の基盤作りを行った。すなわち当該地域より出土した各文字資料の分類とそれぞれの性格と機能を検討し、このうち公文書については、各文書群の間で相互比較することを通じて、唐～宋～元にいたる公文書の長期間にわたる通時的な展開と、周辺国家・地域への公文書の空間的な波及と受容のあり様を明らかにした。研究成果は、既に国際ワークショップを開催して公表し、今はその成果をまとめた本を準備中である。

研究成果の概要(英文)：Based on our researches on the textual materials and historical ruins in the eastern part of the Silk Road, we framed for a new science for the unearthed textual materials, along with a new historical viewpoint. Especially, in terms of official documents, through a mutual comparison of diverse language's documents, we have revealed a diachronic development of official documents in the time of Tang to Yuan and a condition of receptivity to official documents spread toward neighboring states or the surrounding area. We presented our research results at an international work shop, and will publish them in a single volume.

研究分野：人文学B

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：東洋史 古文書学

1. 研究開始当初の背景

シルクロード東部地域からは多言語よりなる文字資料が大量に出土しているが、なかでもトゥルファン、敦煌、ハラホト地域より出土したそれは、内容・数量ともに群を抜いている。そして現在も新たな文字資料の発見が続いている。ただしこれらの文字資料を利用するためには、まずその資料の現場に赴き、その場において資料を「史料」として利用するための前提作業を行う必要がある。それがあってはじめて、文字資料を用いるうえで必須となる、その作成過程やそれ自体がもつ性格や機能、さらには現在にいたるまでのその伝来の過程を明らかにすることができる。歴史の現実を直接伝える大量の歴史資料が存在しながら、それが編纂物のように「史料」として容易に利用できない所以である。今はシルクロード東部の歴史のみならず東洋学の研究全般に新たな展開をもたらすためにも、多言語におよぶ出土文字資料とその関連遺跡に対する現地調査を行い、それを踏まえて出土文字資料の「史料化」を進めなければならない状況にある。

2. 研究の目的

本研究は、シルクロード東部の多言語におよぶ出土文字資料とその関連遺跡に対してフィールド調査を行い、それによりシルクロード東部世界の新たな歴史像の構築に寄与しようとするものである。またこの調査を通して、同地域出土の文字資料を「史料」とするための「出土史料学」の基盤を確立し、学界や社会にその成果を還元できるようにすることも目的とする。なおここに言うシルクロード東部とは、モンゴル・チベットを含む中央アジア～中国北部地域を指す。

3. 研究の方法

全体をトゥルファン・敦煌・ハラホトの三班に分け、それぞれの文字資料と関連遺跡について現地調査を行い、それを通して、三つの文字資料群資料の「史料化」とそれぞれの枠を越えた統合化を推進する。また調査・作業の必要に応じて、言語の別による班分けを行う。ただしこうした諸班は相互に密接にリンクするため、その区分けは厳密なものとはしない。

4. 研究成果

各班における資料調査の成果にもとづき、シルクロード東部地域の民族や文化の交流および政治・社会・経済などの具体的な姿を、各分担者の研究領域から明確にするとともに、「出土史料学」の基盤作りを行った。すなわち当該地域より出土した各文字資料の分類とそれぞれの性格と機能を検討し、このうち公文書については、各文書群の間で相互比較することを通じて、唐～宋～元にいたる公文書の長期間にわたる通時的な展開と、周辺国家・地域への公文書の空間的な波及と受

容のあり様を明らかにした。研究成果は、既に国際ワークショップを開催して公表し、今はその成果をまとめた本を準備中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 31 件)

Masaharu Arakawa Aspects of Sogdian trading activities under the Western Turkic state and the Tang Empire, *Journal of Central Eurasian Studies* Vol.2, 2011, pp. 25-40.

荒川正晴「唐の西北軍事支配と敦煌社会」『唐代史研究』14, pp. 71-98.

荒川正晴「英国図書館蔵和田出土木簡的再研究 - 以木簡内容及其性質为中心」『西域文史』6, 2012, pp. 33-46.

Masaharu ARAKAWA Chinese Research on Sources Excavated from Turfan Archeological Sites, *Asian Research Trends* 7, pp. 19-40.

荒川正晴「インド・イラン起源の諸宗教と中国」『歴史と地理』664 (世界史の研究 235), 2013, pp.1-13.

Tsuguhito TAKEUCHI *The Old Tibetan Annals: An Annotated Translation of Tibet's First History*. By BRANDON DOTSON. With an Annotated Cartographical Documentation by GUNTRAM HAZOD. Wien: Österreichische Akademie der Wissenschaften, 2009. vi, 319 pp. \$112.00 (cloth), *The Journal of Asian Studies* 70, 2011, pp. 557-558.

町田隆吉「唐代西州浄土思想管見 「唐咸亨三年(672)後新婦為阿公録在生及亡没所修功德疏」をめぐって」『国際学研究』2, 2011, pp. 13-37.

町田隆吉「『唐咸亨四年(673)西州左憧熹墓誌』をめぐって 左憧熹研究覚書(2)」『国際学研究』4 (桜美林大学大学院国際学研究科), 2014, pp.59-71.

松井太「西ウイグル時代のウイグル文供出命令文書をめぐって」『人文社会論叢(人文科学篇)』24, 2010, pp. 25-53.

松井太(廣中智之:譯)「吐魯番出土回鶻文書中所看到的七康湖和其灌溉」『吐魯番學研究』2010-1, 2010, pp. 79-81.

松井太「古ウイグル語文献にみえる「寧戎」とベゼクリク」『内陸アジア言語の研究』26, 2011, pp. 141-175.

松井太「敦煌出土のウイグル語曆占文書: 通書『玉匣記』との関連を中心に」『人文社会論叢(人文科学篇)』26, 2011, pp. 25-48.

松井太「敦煌出土西夏語佛典に挿入されたウイグル文雜記」弘前大学人文学部『人文社会論叢』人文科学篇 27, 2012, pp. 59-64.

松井太「敦煌諸石窟のウイグル語題記銘文に関する筭記」『人文社会論叢(人文科学篇)』

30, 2013, pp. 29-50.
高橋照彦「天皇陵」における前方後円墳の終焉」『歴史のなかの天皇陵』思文閣, 2010, pp. 46-50.
高橋照彦「唐代の琵琶とその遡源」『待兼山論叢』46, 2012, pp. 1-26.
高橋照彦「日本古代における新銭の発行契機について」『出土銭貨』33, 2013, pp. 7-16.
舩田善之「《西安清真寺洪武25年聖旨碑》所見元明時期穆斯林的變遷」方鉄・鄒建達主編『中国蒙元史学術研討会暨方齡貴教授九十華誕慶祝会文集』民族出版社, 2010, pp.172-183.
舩田善之「モンゴル帝国(大元)史研究における漢語文書史料について」『歴史と地理世界史の研究』649, 2011, pp. 54-58.
Akihiro SAKAJIRI "A Tibetan Register of Grain Delivery in Dunhuang in the Period Following Tibetan Domination: Pelliot tibetain 1097." Old Tibetan Documents Online Monograph Series Vol. III New Studies of the Old Tibetan Documents: Philology, History and Religion, Yoshiro Imaeda, Matthew T. Kapstein, Tsuguhito Takeuchi (eds.), Tokyo, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 2011, pp. 257-272.
荒川慎太郎「内蒙古文物考古所収蔵の西夏文陀羅尼残片考」『西夏学』8, 2011, pp. 66-71.
荒川慎太郎「プリンストン大学所蔵西夏文仏典断片(Peald)について」*Journal of Asian and African Studies*, 2011, pp. 5-36.
佐藤貴保「西夏法令集『天盛禁令』符牌関連条文訳注(下)」『西北出土文献研究』9, 2011, pp. 101-120.
佐藤貴保「岩手県立博物館・福岡市博物館所蔵西夏文印章について」『西北出土文献研究』10, 2012, pp. 23-58.
佐藤貴保(馮培紅・王蕾中訳)「西夏末期黒水城の状況 從兩件西夏文文書談起」『敦煌学輯刊』2013-1, 2013, pp. 163-180.
荒川慎太郎(白明霞翻訳)「日本の契丹文字、契丹語研究 - 從豊田五郎先生和西田龍雄先生の業績談起」『華西語文学刊』8, 2013, pp. 44-48.
赤木崇敏「十世紀敦煌の王権と転輸聖王思想」『東洋史研究』69-2, 2010, pp. 59-89.
赤木崇敏「ロシア蔵コートン出土唐代官文書Dx.18921, 18940, 18942」『西北出土文献研究』9, 2011, pp. 87-100.
赤木崇敏「宋代「官文書」攷 「宋西北辺境軍政文書」の性格」『大阪大学文学研究科紀要』52, 2012, pp. 33-90.
白須淨眞「大谷光瑞がダライラマ 13 世に宛てた 1910 年 2 月 7 日付け英文書簡 - 外務省外交記録から見るチベット問題と大谷光瑞と大谷探検隊 - 」『広島東洋史学報』14, pp. 11-38.
白須淨眞「1908(明治41)年、堀賢雄が五台

山会談時に撮影した資料 - 第一次大谷探検隊員・堀賢雄資料調査報告 - 」『東洋史苑』75, pp. 1-13.

〔学会発表〕(計 29 件)
荒川正晴「唐の西北軍事支配と敦煌社会」唐代史研究会夏期シンポジウム, 箱根(神奈川県), 2010.8.
荒川正晴「トゥルフアの城邑問題について - 科研調査報告を兼ねて - 」, 第 42 回中央アジア学フォーラム, 大阪大学(大阪府), 2011.7.
荒川正晴「前近代中央アジアの国家と交易」, 内陸アジア史学会大会(招待講演), 北海道大学(北海道), 2012.11.
荒川正晴「シルクロードと日本 - 来世観の伝播を中心に - 」, 大阪大学桜花会講演会(招待講演), 大阪大学(大阪), 2012.11.
荒川正晴「李柏文書研究の現段階 - 主に古文書研究の立場から - 」, 国際シンポジウム
荒川正晴「広域アジアにおける大谷光瑞の活動」, 西本願寺伝道院(京都府), 2013.10.
荒川正晴「唐帝国の中央アジア支配とキャラヴァン交易の変質」大阪歴史科学協議会 12 月例会「交通と国家」, 天満橋(大阪府), 2013.12.
Tsuguhito TAKEUCHI Formation and Transformation of Old Tibetan, The 17th Himalayan Languages Symposium, 神戸市外国語大学(兵庫県), 2011.9.
高橋照彦「平安期緑釉陶器の色彩学的検討 機械計測と目視同定」, 一般社団法人日本考古学協会第 78 回総会, 立正大学, 2012.5.
高橋照彦「篠窠跡群西山 1 号窠の調査とその成果」, 窠跡研究会第 10 回研究会, 亀岡市(京都府), 2013.9.
高橋照彦「篠窠跡群大谷 3 号窠の発掘調査成果」, 第 20 回京都府埋蔵文化財研究会, 京都大学(京都府), 2014.1.
Dai MATSUI A Sogdian-Uigur Bilingual Fragment from the Arat Collection. 2010.10, Turfan Forum on Old Languages of the Silk Road. (新疆吐魯番学研究院)
Dai MATSUI *Borun and Borun-luq in the Old Uigur legal documents*, Beşbalıklı Şingko Şeli Tutung Anısına Uluslararası Eski Uygurca Araştırmaları Çalıştayı, Türk Dili Kurumu (Ankara, Turkey), 2011.6.
松井太「旅順博物館と龍谷大学の 大谷探検隊 将来ウイグル語世俗文書」, 国際シンポジウム「中央アジア出土の仏教写本」, 龍谷大学(京都府), 2011.10.
Dai MATSUI Old Uigur Inscriptions in the Mogao and Yulin Caves, 西域・中亜語文学国際学術研討会(招待講演), 中央民族大学(中国・北京) 2012.11.
松井太「敦煌諸石窟のウイグル語題記銘文」, 第 50 回日本アルタイ学会(野尻湖クリルタイ), 2013.7.
松井太「古代ウイグル語の行政文書: 税役関係文書を中心に」, 「シルクロード東部の文字

資料と遺跡の調査」科学研究班・中央ユーラシア学研究会：共催ワークショップ「ユーラシア東部地域における公文書の史的展開 胡漢文書の相互関係を視野に入れて」, 大阪大学(大阪府), 2013.9.

船田善之「チャガン・ノヤンの言語二通 - モンゴル時代早期のモンゴル語直訳体碑文 -」, 第二屆西夏学国際學術論壇, 西涼大酒店六樓會議室(中華人民共和國・甘肅省武威), 2011.8.

船田善之「漢語文書に記録されたチャガタイの令旨とタムガ モンゴル時代初期の石刻史料より」, 「シルクロード東部の文字資料と遺跡の調査」科学研究班・中央ユーラシア学研究会：共催ワークショップ「ユーラシア東部地域における公文書の史的展開 胡漢文書の相互関係を視野に入れて」, 大阪大学(大阪府), 2013.9.

Yoshiyuki FUNADA Mongol Rulers and Northern Chinese Society under the Early Mongol Empire: A Study on Chaghatai's Domain in Taiyuan. 2013 ACES Annual Conference, Association of Central Eurasian Students, Indiana University (Bloomington, IN, United States), 2013.4.

荒川慎太郎「西夏語の遠称指示代名詞の使い分けについて」, 日本言語学会第141回大会, 2010.11, 東北大学川内北キャンパス(仙台).

荒川慎太郎 Catalogue of Tangut Documents and Study on Tangut Language, 国際ワークショップ「西夏・契丹文文献の図録化と課題」(International Workshop: Xixia and Qidan Documents - Cataloguing and Task -, 兼東外大 AA 研共同利用・研究課題「契丹語・契丹文字研究の新展開」2011年度第3回研究会, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(東京都), 2012.3.

荒川慎太郎「ロシア東洋文献研究所所蔵西夏語文献 Tang. 46, inv. No. 156 再考」, 遼金西夏史研究会第12回大会, 学習院大学(東京都), 2012.3.

佐藤貴保「西夏の官印に関する資料について 日本・中国・ロシア所蔵のものを中心に」, 遼金西夏史研究会第13回大会, 大谷大学(京都府), 2013.3.

佐藤貴保「西夏の官文書の書式について カラホト出土文書と法令規定との対応関係の考察を中心に」, 「シルクロード東部の文字資料と遺跡の調査」科学研究班・中央ユーラシア学研究会：共催ワークショップ「ユーラシア東部地域における公文書の史的展開 胡漢文書の相互関係を視野に入れて」, 大阪大学(大阪府), 2013.9.

赤木崇敏「唐代コータン地域の羈縻支配と文書行政」第47回野尻湖クリルタイ(日本アルタイ学会)(長野), 2010.7.

赤木崇敏「敦煌王国の終焉と「沙州ウイグル」の台頭 11世紀中央ユーラシア東部の国際情勢」, 第43回中央アジア学フォーラ

ム, 大阪大学(大阪府), 2011.12.

赤木崇敏「敦煌王の婚礼 栄親客目からみた10世紀敦煌社会」, 内陸アジア古文獻研究会(招待講演), 東洋文庫(東京都), 2012.5.

赤木崇敏「敦煌王の婚礼 栄親客目からみた10世紀敦煌社会」, 中國中世寫本研究班研究会, 京都大学(京都府), 2012.7.

〔図書〕(計 12 件)

荒川正晴『ユーラシアの交通・交易と唐帝国』名古屋大学出版会, 2010.

荒川正晴(共著)『古代東アジアの道路と交通』勉誠出版, 2011, pp. 179-190.

荒川慎太郎・高井康典行・渡辺健哉編, 『遼金西夏研究の現在 3』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2010.

Tsuguhito TAKEUCHI(共編)『New Studies of the Old Tibetan Documents: Philology, History and Religion. Old Tibetan Documents Online Monograph Series Vol. III, ILCAA, Tokyo: Tokyo University of Foreign Studies, 2011, ix + 338 pp.

高橋照彦(共編)『天皇陵古墳を考える』学生社, 2012, pp. 219-272.

高橋照彦(分担執筆)『古墳時代の考古学』6 <人々の暮らしと社会> 同成社, 2013, pp. 22-31.

高橋照彦(編著)『野中古墳と「倭の五王」の時代』, 大阪大学出版会, 2014, 96 pp.

船田善之(共著)『コミュニケーションと共同体』九州大学出版会, 2012, pp. 145-158.

Dai MATSUI H. Şirin User / B. Gül (eds.), *Yalın Kaya Bitigi: Osman Fikri Sertkaya Armağanı*, Ankara: Türk Kültürünü Araştırma Enstitüsü, 2013, pp. 427-432.

荒川慎太郎(共編)『日本蔵西夏文文献 上・下』中華書局, 2011, 上: 304 pp., 下: 323 pp.

佐藤貴保(共著)『環東アジア研究叢書(1) 環東アジア地域における社会的結合と災害』新潟大学人文社会・教育学系附置環東アジア研究センター, 2012, pp. 121-140.

赤木崇敏(共著)『文書・政令・情報通信: 以唐宋時期為主』北京大学出版社, 2012, pp. 119-165.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荒川正晴（大阪大学・文学研究科・教授）

研究者番号：10 283699 研究者番号：

(2) 研究分担者

町田隆吉（桜美林大学・人文学系・教授）

研究者番号：50316923

松井太（弘前大学・人文学部・教授）

研究者番号：10 333709

船田善之（九州大学・人文科学研究院・講師）

研究者番号：50 404041

荒川慎太郎（東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授）

研究者番号：10361734

佐藤貴保（新潟大学・研究推進機構・准教授）

研究者番号：40 403026

坂尻彰宏（大阪大学・文学研究科・助教）

研究者番号：30512933

ただし1年目のみ。

赤木崇敏（大阪大学・文学研究科・助教）

研究者番号：00 566656

高橋照彦（大阪大学・文学研究科・准教授）

研究者番号：10249906

武内紹人（神戸市外国語大学・外国語学部・教授）

研究者番号：10171612

ただし2年目のみ。